

今、凍てつくような東北の地で…

4回目の3.11まで1ヶ月、「忘れてはいけないことを、忘れてはいないかと」自らに問いながら、あの日、網膜に焼き付けられた痛ましい限りを尽くした光景を思い出して欲しい。

2年と11ヶ月、被災者は家族を失った寂しさや、仮設住宅暮らしの疲れが重くのしかかる日々。精神的ショックや、疲労、自殺など震災関連死は、阪神淡路大震災の3倍以上の2916人に上る。震災を物語る遺構が、次々と解体・撤去されていく。復興道半ばにも及ばぬうちの風化は許されない。

復興のために出来ることは何かを問い続けながら



被災地岩手県のリアス式海岸線を走る三陸鉄道全線の復旧の見通しが4月にたつと報道された。地元の人々の重要な足である三陸鉄道。震災後訪れた駅跡地には、線路の跡形はなく、鉄橋も、トンネルもその形状を失っていた。あれから、どれほど多くの人々の願いと、力を結集しての、待ち望まれた全線復旧。周辺に住む人々が減った今一人でも多くの人が三陸を旅して欲しいと…それが復興につながると。

感謝状頂きました！

石巻を始めとする被災地は、漁業・水産加工で有名な地域です。工場が破壊されたり、倉庫が流され、多くの従業員が亡くなるなど被害が大きく、生産・販売が困難な事業所が数多くあります。それでも仮住まいからでも営業再開を目指して、奮闘されています。

そこで、それらの事業者を応援するプロジェクトに参画して、本校でも缶詰などの販売協力を行いました。その感謝状が、引き続きご協力のお願いとともに届けられています。特産品をお買いあげ頂くのも復興につながるので続けられたらと。

「被災地応援のためには、こんな活動したらいい」と言うご意見お寄せ下さい！

リレートーク 卒業する私たちから…後輩たちへ贈る思い

私達は、この活動を通して、ただ単に被災地の人に思いを伝えているだけではなく、私達自身も、たくさんのことを学んでいるということに気づいてください。

この活動をこのように2年以上続けることが出来ていることに疑問を持って下さい。そして、この環境に、この活動を支えてくれている家族、友達、先生方、学校外の人々など、多くの人に感謝し、繋がりを感じてください。

私達の活動は全て人と人の繋がりの中で成り立っています。被災地への支援も、ただ支援をしているのではなく、私達も被災地の人達に人との繋がりや、感謝の気持ちを教えて頂いていることを忘れないでください。そして、屋外で楽しく遊ぶなど、私達が当たり前だと思っていることが、当たり前にはできない人達が、同じ国に居るということを忘れず、これからも、この活動を続けていってください。

C.S.

私にとってこの委員会活動は、人の暖かさを感じる毎日でした。また、委員長をさせていただいた去年は、被災地の現状を伝えることの難しさを感じる反面、被災者の方々からのお礼状に感動したり、多くの方々に支えていただいて私たちは活動できていることを痛感し、私自身も成長できたと思っています。これからも活動をしていく後輩の皆さん、「息の長い支援活動」ができるように頑張りすぎず、しかし粘り強く続けていってください。

M.U.

この委員会に所属したことは、私にとってとても誇らしいことです。活動中、至らない点も多くあったかと思いますが、私たちなりの支援をさせてもらえて嬉しく思います。これからも、この活動が続けることができるよう、ずっと応援しています。

H.I.

私は震災が起きた当時何もすることの出来ない自分が無力で仕方ありませんでした。しかし、先輩方がすぐさまこの委員会を立ち上げ、先生に声をかけて頂きこの活動に関わることができて本当に良かったと思います。ただ、物資面を支援するだけではなく、被災者の方々に寄り添い、人との繋がりを感じることを出来る素晴らしい委員会だと思います。震災から月日は経ちますがこれからもこの活動を絶やすことなく、被災者の方々に心を寄せ続けられる活動であってほしいと願っています。

M.I.

私はこの委員会活動を行うことで視野が広がったように思います。震災のために何かしようと思っていても普段すぐに行動に移せませんでした。しかし、委員会に入ることで自分がしたいと思っていたことを共有しあい、形にすることができました。そして少しでも被災地がより良い状態に戻せる手伝いが出来たことに感謝したいと思います。これからも後輩の皆さんにこの委員会を通して被災地を思う気持ちを伝えてほしいです。

U.K.

高校3年生からのメッセージは、次回も続きます。